

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000047		
法人名	社会福祉法人 健寿会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	佐賀県佐賀市富士町大字小副川562		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年1月30日	外部評価確定日	平成27年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然環境に恵まれた山紫水明の地で四季折々の美しい景色と温泉入浴を楽しんでいただき、日常生活動作の中でリハビリを取り入れ手足のアロママッサージでリラックスしていただく等、家庭的で安心出来る生活を送っていただけるようサポートしている。また、入居者個々の残存能力を活かし個別に対応している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市の最北部に位置する事業所は自然豊かな環境の中に建っている。近くに熊の川温泉もあることから新しく発掘し、お風呂にはその温泉を引いている。広い敷地の中に複数の同法人施設があり、お互いに助け合うことができるため職員には心強い。日々の暮らしの中での動作をリハビリと捉え、リビングに集まること、トイレへ行くこと等の動きも見守りと介助を織り交ぜながら支援している。職員達のチームワークは良く、入居者に寄り添ったケアを実践している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価		
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容	
			実施状況	実施状況	実施状況		
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとり個人として尊重し、地域の中で心のふれあい・あたたかさを大切にしたい。寄り添うケアに努める事等を運営理念としておりミーティングの際も理念に基づいたサービスの提供が出来るよう話し合いを行い日々の業務に取り組んでいる。	一人ひとり個人として尊重し、地域の中で心のふれあい・あたたかさを大切にしたい。寄り添うケアに努める事等を運営理念としておりミーティングの際も理念に基づいたサービスの提供が出来るよう話し合いを行い日々の業務に取り組んでいる。	理念は、法人全体で掲げているものを共有している。職員の休憩室やリビングに掲示され、常に立ち戻る基本であることを意識付けている。毎月の職員会議でも理念に添ったケアが出来ているか、職員各々は自らを振り返るようにしている。入居者とのふれあいをこく自然なケアとして行っている様子に、それが活かされているのが分かる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	併設の介護施設における行事に近隣の保育園、小・中学校、また住民も積極的に参加いただいているが事業所単独での日常的な交流は少ない。立地条件から困難な側面もある。	併設の介護施設における行事に近隣の保育園、小・中学校、また住民も積極的に参加いただいているが事業所単独での日常的な交流は少ない。立地条件から困難な側面もある。	自治会には加入していないが、地域住民との積極的な交流は考えられている。同法人施設が複数建つ丘の上には、広いグラウンドもあり、納涼祭や運動会などを催す際には、地域住民も招き賑わっている。学生や住民のボランティアも受け入れており、地域活動との関わりや役割も担えるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、介護者教室や生活・支援サポーター養成事業に取り組んでいるが今年度は実施しておらず。	例年、介護者教室や生活・支援サポーター養成事業に取り組んでいるが今年度は実施しておらず。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に開催し日頃のサービスの内容や入退居状況等情報提供を行い地域の方から意見や感想等いただきサービスの向上に活かしている。また今年度から新たな民生委員の方に参加いただいている。	概ね2ヶ月毎に開催し日頃のサービスの内容や入退居状況等情報提供を行い地域の方から意見や感想等いただきサービスの向上に活かしている。また今年度から新たな民生委員の方に参加いただいている。	運営推進会議は事業所からの報告のみに止まらず、双方向的な会議となるよう努めている。開始時間を18時へ変更してみることもメンバーの出席しやすい状況を考慮しての試みである。家族会はないが、出席可能な家族へは参加をお願いしている。運営推進会議を、外部の方の目が入る貴重な機会と捉え、メンバーからの率直な意見が聞けるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の事業や法人事業等、随時話し合うようになっている。	地域の事業や法人事業等、随時話し合うようになっている。	運営推進会議のメンバーでもあることから、日頃から顔なじみである。市町村担当者が異動した場合も、問題なく引き継がれている。問い合わせや相談事は、まず電話で行うが、実直に対応してもらえる関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を開催しており、内容をミーティング時に全職員に伝達、また、マニュアルの周知徹底や研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を開催しており、内容をミーティング時に全職員に伝達、また、マニュアルの周知徹底や研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内では、毎月の委員会の他、全職員に対する研修も年1回必ず行っている。職員は、身体拘束の内容とその弊害を理解している。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もせず、職員の見守りに徹したケアで自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で高齢者虐待防止委員会を開催しており、研修の実施、話し合いを行い、具体的な介助方法を職員間で共有し、虐待防止に努めている。	併設施設と合同で高齢者虐待防止委員会を開催しており、研修の実施、話し合いを行い、具体的な介助方法を職員間で共有し、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での研修会や機会があれば、外部の研修会への参加をしている。必要性のある方は併設施設の担当者と連携し相談を受けている。	併設施設での研修会や機会があれば、外部の研修会への参加をしている。必要性のある方は併設施設の担当者と連携し相談を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、家族や利用者やゆったりとコミュニケーションを図れるよう配慮し、不安や疑問が残らないよう関わりを行っている。	契約時は時間をかけ、家族や利用者やゆったりとコミュニケーションを図れるよう配慮し、不安や疑問が残らないよう関わりを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は普段より伺い、介護記録に残し、ミーティング等で職員間で周知し、サービスの向上に努めている。また、現在のところ苦情はないが、随時、受けつける体制を整えている。	意見、要望は普段より伺い、介護記録に残し、ミーティング等で職員間で周知し、サービスの向上に努めている。また、現在のところ苦情はないが、随時、受けつける体制を整えている。	毎月の利用料支払いも含め、家族の来所時は何でも話してもらえるよう努めている。想いを口にすることが難しい家族とは、少しずつ会話を重ねることで信頼関係を築こうとしている。定期連絡などの電話も大切なコミュニケーションであり、出された意見は前向きに活かそうとする体制が出来ている。事業所の外にも苦情や相談窓口があることは書類にも明記され、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを実施し、管理者、職員との意見交換を行っている。また、管理者は現場での業務を行っているの、普段より職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月、ミーティングを実施し、管理者、職員との意見交換を行っている。また、管理者は現場での業務を行っているの、普段より職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月1回の職員会議は、ユニット毎に開かれ、非番者も出席し、自由な発言の場となっている。前回出された意見の検証に始まり、理念の再確認、研修内容の周知など限られた時間を有効に活用している。管理者は、日頃から職員の声に耳を傾け活かそうとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や会議等での様子を総合的に見て、個々の課題作りや役割等の見直し、研修への参加を促す等行い、向上心が持てるよう努めている。	勤務状態や会議等での様子を総合的に見て、個々の課題作りや役割等の見直し、研修への参加を促す等行い、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会やミーティング等を利用し行っている。また、可能な限り研修を受ける機会を作っている。	勉強会やミーティング等を利用し行っている。また、可能な限り研修を受ける機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の他事業所の職員との交流、意見交換等を定期的に行っている。	県内の他事業所の職員との交流、意見交換等を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりコミュニケーションを図り、その中から気持ちを汲み取り、ケアを行っている。また、職員間で、会議等で情報を交換し、共有している。	日頃よりコミュニケーションを図り、その中から気持ちを汲み取り、ケアを行っている。また、職員間で、会議等で情報を交換し、共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからも面会時や電話連絡の際、定期的に機会を作り対応している。	入居されてからも面会時や電話連絡の際、定期的に機会を作り対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い、相談内容に応じて医療、相談機関等の利用を行うよう努めている。	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い、相談内容に応じて医療、相談機関等の利用を行うよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や慣わし、畑作り等で利用者の方から学んだり、洗濯物たたみや食器拭き等、お手伝いをさせていただき、支え合う関係を築いている。	食事や慣わし、畑作り等で利用者の方から学んだり、洗濯物たたみや食器拭き等、お手伝いをさせていただき、支え合う関係を築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際には必ず本人の状態をお伝えし、また、行事参加の呼びかけを行い、共に過ごしていただく機会を作っている。	面会時や電話連絡の際には必ず本人の状態をお伝えし、また、行事参加の呼びかけを行い、共に過ごしていただく機会を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設に近隣の方もおられ、訪問の際はお話される機会を作り、支援している。また、家族へ外出の機会を作ったいただけるよう声掛けしている。	併設施設に近隣の方もおられ、訪問の際はお話される機会を作り、支援している。また、家族へ外出の機会を作ったいただけるよう声掛けしている。	入居までの人間関係を把握するため、場合によっては自宅を訪問したり、担当のケアマネージャーや利用していた施設等からも話を聞いたりして情報を集め、支援に活かそうとしている。美容院の利用については、出張サービスも受けられるが、希望に添った形で支援している。お正月やお盆の時期には、必ず家族とも相談し、想いに応えられるよう努めている。入居者の中には、時として日に数回の電話取次ぎを頼む方もいるが、真摯に向き合っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察から相性等を把握し、座席の位置や利用者同士の関わり合い、まとまりがある人間作りに努めている。また、手伝いをさせていただく際は偏らず、バランスを考えている。	日頃の様子観察から相性等を把握し、座席の位置や利用者同士の関わり合い、まとまりがある人間作りに努めている。また、手伝いをさせていただく際は偏らず、バランスを考えている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に必要な時は相談に応じ、サポートを行う事を説明している。	契約終了時に必要な時は相談に応じ、サポートを行う事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とコミュニケーションの中から意向や希望を汲み取り、本人の思いに添えるように努めている。	本人とコミュニケーションの中から意向や希望を汲み取り、本人の思いに添えるように努めている。	日々の関わりの中で入居者一人ひとりと向き合いながら、思いが汲み取れるよう努めている。入居者の様子によって手を握ったり、体に触れながら話をするなど、対応を変え寄り添っている。事業所の特色でもあるアロママッサージは、入居者が心身共にリラックスする中で素直な想いを口にしてくれることもあり、大切な時間となっている。その気付きは、申し送りノートや経過記録に記され共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報を得たり、話題等に取り入れる等配慮している。	家族より情報を得たり、話題等に取り入れる等配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務帯で記録の申し送りを通じ、情報を共有しながら1日の様子を把握に努め、定期的話し合いの場を持ち、アセスメントに反映させている。	各勤務帯で記録の申し送りを通じ、情報を共有しながら2日の様子を把握に努め、定期的話し合いの場を持ち、アセスメントに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、皆で介護計画を作り上げている。本人、家族も出来るだけカンファレンスに参加してもらい意見を伺っている。参加が難しい場合は、面会時や電話等で要望等を事前に伺い計画に反映させている。	毎月カンファレンスを実施し、皆で介護計画を作り上げている。本人、家族も出来るだけカンファレンスに参加してもらい意見を伺っている。参加が難しい場合は、面会時や電話等で要望等を事前に伺い計画に反映させている。	日頃の関わりの中で本人や家族の意見要望を聞き、計画に反映させている。設定した期間での見直しはもちろんのこと、変化があれば臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に排泄、食事、服薬、水分摂取量、経過等記録をとっており、各勤務帯で対応の様子や変化等具体的に書くよう努め、勤務者同士の情報の共有と介護の記録の反映に活かしている。	個別に排泄、食事、服薬、水分摂取量、経過等記録をとっており、各勤務帯で対応の様子や変化等具体的に書くよう努め、勤務者同士の情報の共有と介護の記録の反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居、受診時に本人、家族と相談し、支援しており、かかりつけ医と連携をとっている。	入居、受診時に本人、家族と相談し、支援しており、かかりつけ医と連携をとっている。	入居前からのかかりつけ医へ通う入居者もあり、馴染みの医師による継続的な診療が受けられるよう支援している。受診に家族が付き添う場合は、日常の様子を記す様式があり、正確に医師に伝わるよう工夫されている。また、職員が付き添う場合、その結果は当日中に家族に報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者の状態を把握し、健康管理に努めている。また、利用者の状態変化時は報告、相談している。	看護師が利用者の状態を把握し、健康管理に努めている。また、利用者の状態変化時は報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人の状態の把握と病院関係者と情報交換を行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人の状態の把握と病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族と随時話し合いの場を持ち、先々の方針の検討と情報の共有を行っている。	主治医や家族と随時話し合いの場を持ち、先々の方針の検討と情報の共有を行っている。	これまでに看取りの経験はないが、希望があればその用意はある。入居時に「看取り介護に関する指針」として説明もしている。容態の変化に伴い、本人や家族の想いも揺れ動くことを踏まえ、その都度、何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は報告を行うと共に処置、対応については勉強会等を行っている。	緊急時は報告を行うと共に処置、対応については勉強会等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを職員が周知しており、地域の消防団参加にて、併設施設と合同の避難訓練を行っている。	災害時マニュアルを職員が周知しており、地域の消防団参加にて、併設施設と合同の避難訓練を行っている。	年2回、消防署の立会いや地域の消防団にも参加を呼びかけ、隣接する法人全体での訓練を行っている。夜間は、想定のみで時間帯は昼間に行っている。事業所の構造はサッシ戸も多く設えてあり、非常口の役割も考慮されている。職員は、消火器や火災通報装置の使い方も承知している。非常食や水の備蓄、寒さを凌げる物の用意も法人全体として備えている。訓練記録は、丁寧に残されており、そこには反省点や改善策なども記されている。夜間の非常事態には、隣接する同法人施設が複数あることから、応援も得やすい状況ではある。しかし、職員だけの避難や誘導に限界があることを踏まえ、まだ課題は残されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の違いの尊重やさりげない支援、礼儀をわきまえた言葉使い等対応している。	利用者一人一人の違いの尊重やさりげない支援、礼儀をわきまえた言葉使い等対応している。	年長者として敬意を払い、トイレへの誘導にしてもさりげないケアを心掛けている。法人内やグループホーム独自でも年1回の接遇研修を行っており、職員の意識は高い。また、個人情報についても責任ある取り扱いと管理がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やその日の作業等、日常の中で場面を作るよう配慮しており、介助の前は本人の同意を得てから対応している。	食事やその日の作業等、日常の中で場面を作るよう配慮しており、介助の前は本人の同意を得てから対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時や就寝時間等、生活の流れを利用者のその日のペースに合わせて支援を行っている。	朝の起床時や就寝時間等、生活の流れを利用者のその日のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入浴後等、一人一人職員がついて、本人の意向を第一に考え、整容を行っている。	毎朝、入浴後等、一人一人職員がついて、本人の意向を第一に考え、整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は出来るだけ共に食事を摂るようにしており、個人に応じた食器での提供やゆっくり楽しみながら食べていただくよう配慮を行っている。また、個々の能力に応じて下準備、食器拭き、配膳等していただいている。	職員は出来るだけ共に食事を摂るようにしており、個人に応じた食器での提供やゆっくり楽しみながら食べていただくよう配慮を行っている。また、個々の能力に応じて下準備、食器拭き、配膳等していただいている。	献立は、法人の栄養士によって立てられ、栄養価も計られている。誕生日には、本人の希望に添ったメニューが用意され、家族の出席もある。職員は、入居者と同じテーブルで同じものを食べたり、または弁当持参であったりと様々ではあるが、時には介助もしながら食事のひとつきを大切にしている。アルコールの希望があればノンアルコールのビール等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が作成しており、食事、水分の摂取量はチェック表にて把握している。医師の指示により食事量や形態は個別に対応している。また、排泄面も考慮し、支援を行っている。	献立は併設施設の管理栄養士が作成しており、食事、水分の摂取量はチェック表にて把握している。医師の指示により食事量や形態は個別に対応している。また、排泄面も考慮し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、義歯を使用されている方は、毎日、義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。	毎食後、口腔ケアを実施しており、義歯を使用されている方は、毎日、義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンを把握し、支援している。また、誘導、介助はさりげなく行い、失禁の対応は、まず、人目の付かないところに誘導する等、十分に配慮している。	排泄チェック表によりパターンを把握し、支援している。また、誘導、介助はさりげなく行い、失禁の対応は、まず、人目の付かないところに誘導する等、十分に配慮している。	可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。パターンを把握することによって細かいケアが実践できているため、一部のみ介助という入居者が殆どである。自分でトイレへ向かう入居者でも全てを本人任せにするのではなく、さりげない見守りや介助に努めることで残存能力が引き出され、その維持へと繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、牛乳を多く取り入れ、出来るだけ自然排便を目指している。また、日常生活の中で運動を取り入れている。	食物繊維、牛乳を多く取り入れ、出来るだけ自然排便を目指している。また、日常生活の中で運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせて入浴の支援を行っている。	本人の希望に合わせて入浴の支援を行っている。	事業所のお風呂には、温泉が使われている。そのため、希望があればいつでも入浴は出来る。浴槽が浴室の中央にあり、両側からの介助がしやすい設計となっている。冬場の脱衣場は温度管理され、湯上りには個々に保湿剤も用意されている。また、転倒防止や歩行を助けるために手摺りも設置している。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は見守りながら羞恥心にも配慮している。拒む方には清拭等で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を記録に残し把握を行い、一人一人の就寝時間を変えたり、また、日中の活動等を工夫し、生活のリズムを整えるように努めている。	夜間の様子を記録に残し把握を行い、一人一人の就寝時間を変えたり、また、日中の活動等を工夫し、生活のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を保管している薬と同じ場所に置いており、随時、職員が内容を把握出来るよう努めている。また、与薬前には職員2名で確認し、服薬チェックに記入している。	内服薬の説明書を保管している薬と同じ場所に置いており、随時、職員が内容を把握出来るよう努めている。また、与薬前には職員3名で確認し、服薬チェックに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な分野を考慮して、利用者と相談しながら行っている。また、外出、散歩等により気分転換を図っている。	それぞれの好みや得意な分野を考慮して、利用者と相談しながら行っている。また、外出、散歩等により気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で開催される行事、クラブ等へ本人の希望に沿って参加しており、家族への声掛けにて共に外出される事もあり。	併設施設で開催される行事、クラブ等へ本人の希望に沿って参加しており、家族への声掛けにて共に外出される事もあり。	広い敷地の中に複数の同法人施設があるため、そこへ出掛けることも多い。デイサービスに来ている友人と会ったり、イベント事に参加することもある。外気に触れることは五感の刺激にもなることから、天候や体調をみながら出来るだけ外に出てみることを支援している。運営推進会議から得た情報で計画されたドライブもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する機会の際に支援している。	一人一人の希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する機会の際に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っており、家族にも協力していただいている。	希望に応じて行っており、家族にも協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや光の強さに対する配慮は必要に応じて行っている。リビングに畳間の設置やソファを置いたり、また、季節に応じて壁飾りや生花を飾る等、家庭的な雰囲気作りを行っている。	音の大きさや光の強さに対する配慮は必要に応じて行っている。リビングに畳間の設置やソファを置いたり、また、季節に応じて壁飾りや生花を飾る等、家庭的な雰囲気作りを行っている。	ユニット毎に特色を持たせている。リビングを中心に置いたデザインでは、居室を出るとリビングにいる誰かの姿が必ず見え、安心感へと繋がる。一方、吹き抜けがあるリビングでは、ガラス張りのその周辺は椅子やテーブルが置かれ、入居者や家族が来所した折の寛ぎの場となっている。どちらにも畳の間があり、アロママッサージを受ける場合は、寝そべることが出来る。玄関には、入居者の手作り作品や生花が飾られていたり、廊下も歩行を妨げる物はない。時にはモップ掛けを手伝う入居者もいて、全体的にすっきりと片付けられている。浴室やトイレもきれいに掃除され、嫌な臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳間やソファを置いたり、リビングスペース等、お気に入りの空間を選択出来るようにしており、テラスにテーブルベンチを設置し有効活用している。	畳間やソファを置いたり、リビングスペース等、お気に入りの空間を選択出来るようにしており、箱庭の前にテーブルと椅子を設置し有効活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人により持ち込まれている家具等の量は差がある。グループホーム側でも個人の好みに合わせて写真やカードを飾る等の工夫をしている。	当初より、クローゼットを設置せず、個人で用意していただいている。グループホーム側でも個人の好みに合わせて写真やカードを飾る等の工夫をしている。	居室には火気等の危険物以外、持ち込む品物に制限はない。使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。仏壇を持っている入居者には、毎朝の仏飯を用意していたこともある。担当の職員を決め、居室の飾りや衣替えの時期などの配慮を任せている。家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最初は必要のなかった浴槽の手すりや滑り止めのマット、シャワーチェアを設置し、キッチンの作業台の高さも利用者に合わせて低くする等の配慮をしている。また、トイレ迄の距離も短く数の確保も出来ており、車椅子の方でも使用し易い広さにしている。	最初は必要のなかった脱衣場の手すりを設置し、キッチンの作業台の高さも利用者に合わせて低くする等の配慮をしている。また、居室からトイレ迄の距離も短く数の確保も出来ており、車椅子の方でも使用し易い広さにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない